

## 第3回赤磐市まちづくり審議会における主な意見への対応

項番	意見	対応
1	現在ある産業基盤をベースに、赤磐市に合った企業誘致が必要。基本構想ではその方向性を打ち出し、実施計画の段階では荒唐無稽な計画ではなく、具体的な施策を考えなければならない。（人材の確保、水資源・電力の確保、輸送等赤磐市の現在の産業基盤をベースに）	【資料2】 P. 25 【資料3】 P. 2（企業誘致、人材確保）
2	市内の企業・産業の力を発揮できる、新しい事業展開ができる、地域の企業を大事にする施策を打ち出していくことが必要（地域の資源をうまく使う、地域の産業をベースにした産業振興策）	【資料2】 P. 12、16、25 【資料3】 P. 3（地域産業の活性化）
3	弱みの表現の一部が直接的すぎる（学力テストの結果の部分など）ので、再考すること。	【資料2】 P. 14
4	協働して取り組むことが必要だということがわかりやすい計画にすること（大綱図での説明等）。誰と誰が手を結び（協働の相手がよく分かり）、何に取り組んでいくのかということがわかりやすい基本計画にすること。	【資料2】 P. 23 【資料4】 「私たちができること」「主な担当課・関係する課」
5	どの計画を誰がいつまでにやるのかということが分かる基本計画にすること。	【資料4】 「目標指標」「重点施策」「推進施策」「主な担当課・関係する課」
6	「行政がして当然」ではなく、市民が力を合わせていくことが重要なので、そのことが見て取れる計画にすること。	【資料2】 P. 23 【資料4】 「私たちができること」
7	冒頭の「はじめに」は、インパクトが弱いのもっとアピールが必要。市長の思いがもっと前面に出るようにすること（市民一人一人が赤磐市を語る、市民が誇りを持てる市に等）	【資料2】 P. 3
8	赤磐市全土をどういう位置付けで都市計画を進めるのか、この辺の議論がされていない。中心市街地化を積極的に推し進めるのか、4つの小さな拠点をつくっていくのか、その辺の方針を示すべき。	【資料2】 P. 31～
9	人口流出が起きる局面は、子どもを高校に行かせるとき（費用面、送迎面）、高齢者の介護が必要になったとき（病院の近隣）。赤磐市は広域の交通は良いが中での交通が難しい。こういったことに対策ができれば、流出が食い止められるのではないか。基本計画に盛り込めれば良い。	【資料3】 P. 2（地元雇用、Uターン）、16（公共交通）

## 第3回赤磐市まちづくり審議会における主な意見への対応

項番	意見	対応
10	優秀な人は外（東京）に出る。これは岡山市でも同様。地元を懐かしむ理由に、「両親がいる（元気）」、「地元でしか食べられないものがある」、「友達に会える」、「お祭りがある」の4つがある。赤磐市には大きいお祭りが無い。年に1回でも帰ってくる心のよりどころをつくるといったことが盛り込めれば良い。	【資料2】 P. 3
11	赤磐市だけで考えるとJRの駅は熊山にしかないということになるが、近隣の瀬戸にもJRの駅がある。こういった広い目で中心市街地のまちづくりを進めると良いのではないか。岡山市で仕事をして赤磐市に住む。といったことも人口流出を抑えることになる。大きな視点を持った方向性が必要ではないか。	【資料2】 P. 18、29、32 【資料3】 P. 16（公共交通）
12	赤磐市全土をどういう位置付けて都市計画を進めるのか、に関係するが、赤磐市内にあるものは市内で充足させる、ないものは、岡山市などとの連携により充足させる。このことを基本理念、方向性のところに書いてほしい。	【資料2】 P. 18、29、32
13	基本計画のときには具体性が出てくると思うが、市民協働をはかるには、具体性があり、わかりやすいものが必要。たとえば、強み・弱みにインパクトがかける。たとえば、「女性・高齢者が活躍できるまちにする」、「与える福祉から支えあう福祉へ」など、沢山でなくてもよいが、キャッチフレーズになりそうなものが欲しい。	・「資料3」をたたき台に、今後、審議を行う。
14	「実効性を確保した総合計画」とあるが、実効性がいかに確保できるかが大事。この計画をどうやって実現させていくのかということ意識する必要がある。現行計画の検証も甘いので、今度の計画はきちんと検証できる計画にする必要がある。たとえば、P29に公共交通の維持とある、公共交通が手薄な地域のことを想定しているのだとおもうが、岡山市とを結ぶ交通手段、渋滞も含めて、市民と問題を共有して取り組んでいくためには、ある程度具体性がある、わかりやすい計画でないと市民と意思を一緒にすることは難しい。	・成果の検証・評価を毎年度実施できる「実施計画」を作成する。 ・成果の検証・評価を毎年度実施できる体制を構築する。 ・「資料3」をたたき台に、具体性のある基本計画を作成する。
15	公共交通について、利用する人がいないと民間では利益が出ないため、特に中山間地域に大きな路線バスを通すようなことは難しい。どうすれば財政に負担をかけずにやっていけるか工夫が必要。協働など工夫の在り方を基本計画で明らかにしてほしい。	【資料3】 P. 15、16（市民主体、公共交通）

## 第3回赤磐市まちづくり審議会における主な意見への対応

項番	意見	対応
16	<p>山陽地域中心で話題が進んでいるが、吉井地域などは高齢化、医療体制、耕作放棄地などの問題がある。地域も含めて赤磐市なので、考えていく必要がある。行政だけが取り組むには限界が来ている。地域の人、例えば高齢者にもできることがたくさんある。こういった力を活用できる環境・仕組みをつくるのが行政の仕事。こういったことを計画に書き込んでいかなければならない。</p>	<p>「資料3」をたたき台に、左記の内容を踏まえた基本計画を作成する。</p>
17	<p>どうやってコストを圧縮しながら取り組んでいくか。ホットな話題として小規模多機能自治があり、今は「市民協働」から「住民自治」にまで話が進んでいる。この一歩踏み込んだ「住民自治」という言葉が計画に入らないか。</p>	<p>【資料2】P. 2、18、31</p>
18	<p>市からの情報発信と住民からの意見の集約ができる、そういった行政の体制ができればよい。 (昔の地域担当制)</p>	<p>【資料3】P. 15 (情報公開・情報提供・情報共有化)。意見集約の体制については今後検討</p>